

八戸市まちの魅力創生ネットワーク会議

資料 1
第2回会議資料
令和5年5月18日

第1回会議での意見内容とりまとめ

総合政策部 政策推進課





令和5年度政策提言の方向性について

【A委員】

- ・提言の中で令和5年度に実施できていない取組について議論をしていくのもいいのでは。

【B委員】

- ・若者にもっと焦点をあて、若者が集まるまちについて考えていくのもいいのでは。

【C委員】

- ・育てられる側の小・中・高校生のところが大事。

【D委員】

- ・若い世代が街に来たくなるようなことを考えていく必要がある。前回の提言のテーマがよかったので、これを継続した上で新しいことを考えてみていいのでは。

【E委員】

- ・地元の大学を志望して入学した学生が、愛着のある地元で就職が叶うようになれば良い。
- ・大人になるまでに自分に自信を持って社会に出ているように、子どもの頃から何か対策がとれれば良い。

【F委員】

- ・子どもを預けられる施設を民間ではなく市として造ってはいかがか。
- ・子どもを増やす観点から、子どもが遊びに行ける場所やデートする場所を増やすなど、市として何か取組ができるのではないか。

【G委員】

- ・公共交通機関がもっと活発に動くようになれば、子どもを持つ親も「ハチカ」でバスに乗りやすくなるのでは。

【H委員】

- ・インパクトがあって八戸市では特に応援されていると思える子育て支援をどんどんやれば、子どもを産んで育てたくなるのでは。
- ・中心市街地の活性化については、建物整備よりその時のニーズに合った形でできるイベントを多くした方が良いのでは。

【D委員】

- ・移動販売車をうまく活用してイベントを開催をする。
- ・シンガポールの公園のように、大人も子どもも一緒になって体を動かせる場所があれば良い。
- ・八戸と周辺の町村がもっと連携していければ良い。

【C委員】

- ・山口出身の学生が青森県一周をして好きになったように、外から人を呼んで来て、八戸に住んでいる若者と関わることは大きい。
- ・中だけの狭い視点ではなく、外と関わることで大きな視点を持てる機会があれば良い。



令和5年度政策提言の方向性について

【G委員】

- ・市民向けに、移住者の意見を聞いて、自分のまちの良さを再認識する機会があってもよい。
- ・移住者に空き家を安く提供することもいいのでは。

【E委員】

- ・政策の柱1の2つ目「八戸らしい体験に満ちた18年で、八戸を心に刻んでもらう」は、八戸らしさ（例えばディープな地元等）といっても広がりがあり抽象的なので、この部分を分かりやすく伝えるために、もう少し具体化してもいいのでは。

【A委員】

- ・行政は支援に回り、民間企業や高校生・大学生を巻き込む形でできることを提言してもいいのでは。
- ・アンケートは、対象者や設問をかなり絞って実施した方がよい。

【E委員】

- ・昨年の提言でまだ実現できていないところを掘り下げていくのがいいのでは。

【D委員】

- ・昨年の提言はいいキャッチコピーがあったので、それをベースに新しいところを生み出して枝葉を広げていく形がいいのでは。

【F委員】

- ・中心街のイベントは冬場が少なくなりがちなので、ワンフロアをただ走り回れるところがあったり、預かり保育を中心街に作ることで、中心街に行くことを日常にしてしまうというのもいいのでは。

【C委員】

- ・中・高校生がどういうものを求めているかニーズを聞いていきたい。

【H委員】

- ・このまちの魅力は八戸らしさだと思うので、様々なニーズを郷土への愛着へつなげるような、敷居が低くても八戸の文化に触れる仕組みのようなものがあれば良いのでは。

【B委員】

- ・八戸の中心街の賑わいはポテンシャルを持っているので、アクセスの問題も含め、若者に来てもらえるような楽しそうなことができれば良い。

【I委員】

- ・市長に提言するものだが、市民に向けて提言する流れがあってもいいのでは。
- ・東京など外から人を呼ぶ、県内との比較をするような、外と八戸という視点もある。
- ・客を細かく、本当に声をかけたい人に向けられるというような細かい提言になってもいいのでは。